

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	6	東書		8 ~ 23	12	4 ~ 5	

大単元(題材名)	1. 対称な図形		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 線対称な図形や点対称な図形の定義や性質がわかる。
	○ 線対称な図形や点対称な図形の残り半分を作図することができる。
	○ 多角形と線対称，点対称の関係がわかる。
思・判・表	○ 対称性という観点から既習の図形を見直し，図形を分類整理したり，図形の性質を説明したりできる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 対称性という観点から線対称や点対称な図形をみつけたり，その図形の性質を考えたりしようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 線対称な図形の対応する辺，角，点の意味や性質を理解している。	B(1)ア(イ)
	○ 線対称な図形の性質を理解し，対応する辺，角，点をみつけている。	B(1)ア(イ)
	○ 線対称な図形の性質を用いて，線対称な図形を作図している。	B(1)ア(イ)
	○ 点対称な図形の対応する辺，角，点の意味や性質を理解している。	B(1)ア(イ)
	○ 点対称な図形の性質を理解し，対応する辺，角，点をみつけている。	B(1)ア(イ)
	○ 点対称な図形の性質を用いて，点対称な図形を作図している。	B(1)ア(イ)
	○ 線対称な図形，点対称な図形を弁別している。	B(1)ア(イ)
思・判・表	○ 対称性という観点から既習の図形を見直し，分類整理したり，図形の性質を説明したりしている。	B(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 対称性という観点から図形の性質を考察し，図形のもつ美しさに着目しようとしている。	
	○ さまざまな図形を分類整理する授業において，自分で決めた観点を説明したり，多様な観点から分類整理したりしている。	
	○ 身の回りから，対称な図形をみつけている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3・4 年	三角形，四角形
5 年	合同な図形

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.線対称な図形①	1	○ 線対称な図形について理解する。	(1)イ
		・ p 8の写真を見て，ものの形に着目し，気づいたこと，感じたことを話し合う。また，形の特徴に着目し，2つに仲間分けした線対称な図形について調べる。	
		・ 線対称，対称の軸の用語とその意味を知る。	
1.線対称な図形②	1	○ 線対称な図形の対応する辺，角，点の意味や性質を理解する。	(1)イ
1.線対称な図形③	1	○ 線対称な図形で，対応する点を結んだ直線と対称の軸の関係を調べる。	(1)イ
1.線対称な図形④	1	○ 線対称な図形の性質を用いて，線対称な図形を作図する。	(1)イ
2.点対称な図形①	1	○ 点対称な図形について理解する。	(1)イ
		・ 点対称，対称の中心の用語とその意味を知る。	
2.点対称な図形②	1	○ 点対称な図形の対応する辺，角，点の意味や性質を理解する。	(1)イ
2.点対称な図形③	1	○ 点対称な図形で，対応する点を結んだ直線と対称の中心の関係を調べる。	(1)イ
2.点対称な図形④	1	○ 点対称な図形の性質を用いて，点対称な図形を作図する。	(1)イ
3.多角形と対称	2	○ 既習の四角形，三角形，正多角形を対称の観点から見直し，それらの図形についての理解を深める。	(1)イ
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で，折り紙を折って，いろいろな形で切り抜いて，できる形のおもしろさにふれて，図形感覚を豊かにする。	(1)ア
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で，対称な図形の基本的な学習内容を理解しているかを確認し，それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で，辺の長さや角の大きさに注目し図形の性質を考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	6	東書		24	5	5	5

大単元(題材名)	2. 文字と式		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 数量の関係を x , y などの文字を使って式に表せることがわかる。
	○ x , y などの文字を使った式から, x や y にあたる数量を求めることができる。
思・判・表	○ 数量の関係を x , y などの文字を使って式に表すことができる。
	○ x , y などの文字を使った式から, 数量の関係や問題場面などを考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ x , y などの文字を使った式を使って, 数量関係や問題場面を表し, 問題解決に用いようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 数量の関係を x , y などの文字を使って式に表せることを理解している。	A(2)ア(ア)
	○ x , y などの文字を使った式から, x や y にあたる数量を求めている。	A(2)ア(ア)
思・判・表	○ 数量の関係を x , y などの文字を使って式に表している。	A(2)イ(ア)
	○ x , y などの文字を使った式から, 数量の関係や問題場面などを考えている。	A(2)イ(ア)
	○	
主体的に学習に取り組む態度	○ x , y などの文字を用いて式に表すと, 簡潔に表すことができるよさに気づき, 進んで用いている。	
	○ x , y などの文字を使った式から, 数量の関係や問題場面を進んで考えている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4 年	変わり方調べ
5 年	比例

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
文字と式①	1	○ いろいろと変わる数の代わりに, 文字 x を使って式に表し, x を求める。 ・ いろいろと変わる数を表すのに使っていた□に代わり, 文字 x を用いることを知る。 ・ 問題場面を文字 x を使って立式し, x を求める。	(1)ア
文字と式②	1	○ 直径の長さと同円の長さの関係を, 文字 x , y を使って式に表す。 ・ □, ○の代わりに, 文字 x , y を使って関係を式に表す。 ・ x または y に数値を代入して, y または x の値を求める。 ・ x , y を使った式から, その式に表された場面を考える。	(1)イ
文字と式③	1	○ x , y を使った式から, その式に表された場面を考える。	(1)イ
文字と式④	1	○ 未知数があっても, 文字 x を用いると数量の関係を式に表せることを理解する。 ・ 「ますりん通信」を読み, 文字が計算法則などにも使うことができることを知る。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で, 文字を使った式の基本的な学習内容を理解しているかを確認し, それに習熟する。	

2023	年度								
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月			
算数	6	東書		34	13	5		6	

大単元(題材名)	3. 分数のかけ算		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 分数×整数，分数÷整数の計算原理や計算のしかたを理解し，計算することができる。
	○ 分数の乗法で，計算の途中で約分する方法を理解し，計算することができる。
	○ 乗数が分数の場合でも，乗法の式に表せることがわかる。
	○ 分数×分数，整数×分数，3口の計算のしかたを理解し，計算することができる。
	○ 逆数の用語とその意味を理解し，求めることができる。
	○ 分数をかける乗法でも，乗数の大きさから積と被乗数の大小関係を判断することができる。
	○ 辺の長さが分数の場合でも，面積や体積の求積公式を使えることがわかる。
	○ 分数の場合でも，計算のきまりが成り立つことがわかる。
思・判・表	○ 分数×整数，分数÷整数の計算原理や計算のしかたを，分数の性質や既習の計算をもとに考えたり，説明したりすることができる。
	○ 乗数が分数の場合でも，乗法が用いられることを数直線図などを用いて考え，説明することができる。
	○ 乗数が分数の場合の計算のしかたを図をもとに考えることができる。
	○ 分数の乗法を使って，適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 分数×整数，分数÷整数で，計算間違いをしない工夫を考えようとする。
	○ 乗数が分数の場合の計算のしかたを考え，考えたことについて友だちと話し合い，自分の考えを見直してまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

【評価規準】		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 分数×整数，分数÷整数の計算原理や計算のしかたを理解し，計算している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)， A(2)ア(ア)
	○ 分数の乗法で，計算の途中で約分する方法を理解し，計算している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)， A(2)ア(ア)
	○ 乗数が分数の場合でも，乗法の式に表せることを数直線図などを用いて理解している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)， A(2)ア(ア)
	○ 分数×分数，整数×分数，3口の計算のしかたを理解し，計算している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)， A(2)ア(ア)
	○ 逆数の用語とその意味を理解し，求めている。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)， A(2)ア(ア)
	○ 分数をかける乗法でも，乗数の大きさから積と被乗数の大小関係を理解している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)， A(2)ア(ア)
	○ 辺の長さが分数の場合でも，面積や体積の求積公式を使って求めている。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)， A(2)ア(ア)
	○ 乗数が分数の場合でも，交換，結合，分配法則を使って工夫して計算している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ)， A(2)ア(ア)
思・判・表	○ 分数×整数，分数÷整数の計算原理や計算のしかたを，分数の性質や既習の計算をもとに考え，説明している。	A(1)イ(ア)，A(2)イ(ア)
	○ 乗数が分数の乗法の式になる根拠を，数直線図などを用いて考え，説明している。	A(1)イ(ア)，A(2)イ(ア)
	○ 乗数が分数の場合の計算のしかたを，図をもとに考え，説明している。	A(1)イ(ア)，A(2)イ(ア)
	○ 分数の乗法を使って，適用問題を解いている。	A(1)イ(ア)，A(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 整数，小数の乗法と関連付けて，乗数が分数の計算方法を考え，その考えを友だちと話し合っている。	
	○ 分数を整数に置き換えて考えたり，図などに表したりして計算方法を考えている。	
	○ 乗数が分数の計算方法を考え，その考えをわかりやすく説明する工夫をしている。	
	○ 友だちが考えた計算方法を聞いて，自分の考えを見直している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
5 年	小数のかけ算
5 年	小数のわり算
5 年	分数のたし算とひき算

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.分数のかけ算とわり算①	1	○ 分数×整数の計算の意味や計算のしかたを考え、その計算ができる。	(1)ア
1.分数のかけ算とわり算②	1	○ 途中で約分できる分数×整数の計算のしかたを理解し、その計算ができる。	(1)ア, ウ
1.分数のかけ算とわり算③	1	○ 分数÷整数の計算の意味や計算のしかたを考え、その計算ができる。	(1)ア, ウ
		・ 単位分数をもとにして、計算のしかたを考え、計算する。	
1.分数のかけ算とわり算④	1	○ 分子がわりきれない分数÷整数の計算のしかたを理解し、その計算ができる。	(1)イ, ウ
		・ 分数を整数でわる計算は、分子はそのままにして、分母にその整数をかければよいことをまとめる。	
2.練習	1	○ 練習に取り組み、学習内容を理解しているかを確認する。	
3.分数のかけ算①	1	○ 分数×分数の場面で、分数をかけることの意味や乗数が分数のときの立式を理解する。	(1)ア, ウ
		・ 立式した理由を説明する。	
3.分数のかけ算②	1	○ 分数×分数の計算のしかたを考える。	(1)イ, ウ
		・ 分母どうし、分子どうしをそれぞれかけることをまとめる。	
3.分数のかけ算③	1	○ 分数×分数で、計算の途中で約分できるとき計算のしかたを理解する。また、3口の計算のしかたを理解する。	(1)イ, ウ
3.分数のかけ算④	1	○ 整数×分数や帯分数×分数の計算は、整数や帯分数を仮分数になおして計算できることを理解する。	(1)イ
		○ 分数をかける乗法でも、1より小さい数をかけると、積が被乗数より小さくなることを理解する。	(1)イ
3.分数のかけ算⑤	1	○ 辺の長さが分数の場合でも、面積や体積の求積公式が使えることを理解する。	(1)イ
3.分数のかけ算⑥	1	○ 分数の場合でも、乗法の交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解する。	(1)イ, ウ
3.分数のかけ算⑦	1	○ 逆数の用語とその意味を知り、逆数を求める。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、分数のかけ算の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、計算の性質に注目して、分数や小数の乗法のしかたを考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	6	東書		54	7	6	6

大単元(題材名)	4. 分数のわり算		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 除数が分数の場合でも、除法の式に表せることがわかる。
	○ 分数÷分数、整数÷分数、3口の計算のしかたを理解し、計算することができる。
	○ 分数でわる除法で、除数の大きさから商と被除数の大小関係を判断することができる。
	○ 整数、小数と分数の混じった計算のしかたを考え、整数、小数を分数になおして計算することができる。
思・判・表	○ 除数が分数の場合でも、除法が用いられることを数直線図などを用いて考え、説明することができる。
	○ 除数が分数の場合の計算のしかたを図をもとに考えることができる。
	○ 分数の除法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 除数が分数の場合の計算のしかたを考え、考えたことについて友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 除数が分数の場合でも、除法の式に表せることを数直線図などを用いて理解している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), A(2)ア(ア)
	○ 分数÷分数、整数÷分数、3口の計算のしかたを理解し、計算している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), A(2)ア(ア)
	○ 分数でわる除法で、計算の途中で約分できるときの計算のしかたを理解している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), A(2)ア(ア)
	○ 分数でわる除法で、除数の大きさから商と被除数の大小関係を理解している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), A(2)ア(ア)
	○ 整数、小数と分数の混じった計算で、整数、小数を分数になおして計算している。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), A(2)ア(ア)
思・判・表	○ 除数が分数の除法の式になる根拠を、数直線図などを用いて考え、説明している。	A(1)イ(ア), A(2)イ(ア)
	○ 除数が分数の場合の計算のしかたを、図をもとに考え、説明している。	A(1)イ(ア), A(2)イ(ア)
	○ 分数の除法を使って、適用問題を解いている。	A(1)イ(ア), A(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 整数、小数の除法と関連付けて、除数が分数の計算方法を考え、友だちと話し合っている。	
	○ 分数を整数に置き換えて考えたり、図などに表したりして計算方法を考えている。	
	○ 除数が分数の計算方法を考え、その考えをわかりやすく説明する工夫をしている。	
	○ 友だちが考えた計算方法を聞いて、自分の考えを見直している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
5	年 小数のわり算
6	年 分数のかけ算

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
分数のわり算①	1	○ 分数÷分数の場面で、分数でわることの意味や除数が分数のときの立式を理解する。	(1)ア, ウ
		・ 立式した理由を説明する。	
分数のわり算②	1	○ 分数÷分数の計算のしかたを考え、説明する。	(1)イ, ウ
		・ 分数でわる計算では、被除数に除数の逆数をかけることをまとめる。	
分数のわり算③	1	○ 分数÷分数で、計算の途中で約分できるときの計算のしかたを理解する。また、3口の乗除混合計算のしかたを理解する。	(1)イ
分数のわり算④	1	○ 整数÷分数の計算や帯分数の除法は、整数や帯分数を仮分数になおして分数÷分数として計算できることを理解する。	(1)イ
		○ 分数でわるわり算でも、1より小さい数でわると、商は被除数より大きくなることを理解する。	(1)ア
分数のわり算⑤	1	○ 分数の除法の文章題で、数直線図を用いて演算決定をし、立式する。	(1)ア
分数のわり算⑥	1	○ 分数、小数、整数の混じった計算のしかたを考え、説明する。	(1)イ, ウ

令和5年度 算数科 第6学年 評価規準

江戸川区立第四葛西小学校

		・ 分数，小数，整数の混じった乗除計算は，小数や整数を分数になおして計算することをまとめる。	
		・ 小数になおす考え方と，分数になおす考え方を比べる。	
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で，分数の除法の基本的な学習内容を理解しているかを確認し，それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で，計算の性質に注目して，分数や小数の除法のしかたを考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	6	東書		70 ~ 73	3	6 ~ 6	

大単元(題材名)	分数の倍		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 基準量や割合が分数で表されているとき、割合や比較量、基準量を分数の乗法・除法を適用して求めることができる。
思・判・表	○ 基準量や割合が分数で表されているとき、割合や比較量、基準量を分数の乗法・除法を適用して求めている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 基準量や割合が分数で表されているとき、割合や比較量、基準量を整数倍や小数倍をもとに考えて、求めようとしている。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 基準量が分数で表されているとき、何倍かを分数の除法を用いて求めている。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), A(2)ア(ア)
	○ 基準量を分数倍した大きさを求めるときには、分数の乗法を用いて求めている。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), A(2)ア(ア)
	○ 割合が分数で表されているとき、基準量を分数の除法を用いて求めている。	A(1)ア(ア)(イ)(ウ), A(2)ア(ア)
思・判・表	○ 基準量が分数で表されているとき、何倍かを分数の除法を用いて求め方を考えている。	A(1)イ(ア), A(2)イ(ア)
	○ 基準量を分数倍した大きさを求めるとき、分数の乗法を用いて求め方を考えている。	A(1)イ(ア), A(2)イ(ア)
	○ 割合が分数で表されているとき、基準量を分数の除法を用いて求め方を考えている。	A(1)イ(ア), A(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 基準量や比較量が分数の場合の倍の意味を、既習の整数倍や小数倍をもとに考え、わかりやすく説明する工夫をしている。	
	○ 基準量や割合が分数で表されているとき、基準量や比較量の求め方を考え、その考えを友達と話し合っている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
5	年 小数倍
6	年 分数のかけ算 / 分数のわり算

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
分数の倍①	1	○ 基準量や比較量が分数で表されているとき、何倍かを求めるのに分数の除法で求められることを理解する。	(1)ア
		・ 図や式を使って、分数の場合でも、何倍かを求めるのに除法を使うことを説明する。	
分数の倍②	1	○ 割合が分数で表されているとき、比較量を求めるのに分数の乗法で求められることを理解する。	(1)ア
分数の倍③	1	○ 割合が分数で表されているとき、基準量を求めるのに分数の除法で求められることを理解する。	(1)ア
		・ 雑誌の値段を x として、 x を使った式に表し、 x にあう数を求める。	

2023

年度

教科

算数

学年

6

教科書

東書

上下

教科書ページ

76

～

88

配当時数

8

配当月

7

～

7

大単元(題材名)	5. 比		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	C 変化と関係		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 「比」の意味や表し方がわかる。
	○ 比の値の意味，等しい比の意味を理解し，等しい比をつくることができる。
	○ 「比を簡単にする」という意味を理解し，整数，小数，分数で表された比を簡単にすることができる。
思・判・表	○ 比の考え方をを用いる問題を解決することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 比の意味や表し方，比を活用することを考え，それを日常生活に生かそうとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 「比」の用語とその意味や表し方を理解している。	A(2)ア(ア)，C(2)ア(ア)
	○ 比の値の用語と意味を理解し，比の値が等しいとき，比は等しいことを理解している。	A(2)ア(ア)，C(2)ア(ア)
	○ $a:b$ の， a と b に同じ数をかけても， a と b を同じ数でわっても，比は等しいことを理解している。	A(2)ア(ア)，C(2)ア(ア)
	○ できるだけ小さな整数の比にすることを，「比を簡単にする」ということを理解している。	A(2)ア(ア)，C(2)ア(ア)
	○ 小数や分数で表された比は，整数の比になおしてから簡単にすることを理解している。	A(2)ア(ア)，C(2)ア(ア)
思・判・表	○ 比の一方の量を求める方法を考え，説明している。	A(2)イ(ア)，C(2)イ(ア)
	○ 全体の量をある大きさの比に分ける問題を考え，説明している。	A(2)イ(ア)，C(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 2つの数量の割合を比で表すよさを理解し，進んで比を用いて考えている。	
	○ 日常生活の中から，比を活用できる場面を進んで探している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
5	年 割合
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.比と比の値①	1	○ 「比」の用語とその意味や表し方を理解する。	(1)ア
		・ ハンバーグソースをつくるときの，ウスターソースとケチャップの量を考える。	
1.比と比の値②	1	○ 比の値の用語とその意味を知り，比の値が等しいとき，比は等しいということを理解する。	(1)ア
		・ 「ますりん通信」で，比と割合の関係について考える。	
2.等しい比の性質①	1	○ $a:b$ の， a と b に同じ数をかけても， a と b を同じ数でわっても，比は等しいことを理解する。	(1)イ
2.等しい比の性質②	1	○ 大きな比を，比の値や比の性質を使って，わかりやすくする方法を考える。	(1)イ
		・ できるだけ小さな整数の比にすることを，「比を簡単にする」ということを理解する。	
2.等しい比③	1	○ 小数や分数で表された比は，整数の比になおしてから簡単にすることを理解する。	(1)イ
3.比の利用①	1	○ 比の一方の量を求める方法を考え，求める。	(1)ア，ウ
3.比の利用②	1	○ 全体の量から分けた量を求める方法を考え，求める。	(1)ア，ウ
		・ 「ますりん通信」で，3つの数の比を知り，興味，関心をもつ。	
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で，比の基本的な学習内容を理解しているかを確認し，それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で，数量の関係に注目し，比を使って知りたい数量の求め方を考える。	

2023	年度								
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月			
算数	6	東書		92	~ 103	8	9	~ 9	

大単元(題材名)	6. 拡大図と縮図		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 拡大図，縮図の用語とその意味がわかる。
	○ 拡大図，縮図のかき方がわかり，かくことができる。
	○ 縮尺の用語とその意味がわかり，縮図から実際の長さを求めることができる。
思・判・表	○ 拡大図，縮図を利用して，直接測れないものの長さや高さを求める方法を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 拡大図，縮図のよさに気づき，どんな場面で利用されているか考え，それを日常生活に生かそうとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 拡大図の用語とその意味を理解している。	B(1)ア(ア)
	○ 縮図の用語とその意味を理解している。	B(1)ア(ア)
	○ 三角形の拡大図と縮図を合同な三角形の作図をもとに作図している。	B(1)ア(ア)
	○ 1点を中心にして，三角形や四角形の拡大図と縮図を作図している。	B(1)ア(ア)
	○ 縮尺の用語とその意味がわかり，縮図から実際の長さを求めている。	B(1)ア(ア)
思・判・表	○ 縮図をかくて校舎の実際の高さを求めている。	B(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 日常生活の中から，拡大図・縮図が活用されている場面をみつけている。	
	○ 地図の縮尺を知り，地図上の長さから実際の長さを進んで求めている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
5 年	合同な図形
6 年	比

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1. 拡大図と縮図①	1	○ 拡大図，縮図の用語とその意味を知る。	(1)ア，ウ
1. 拡大図と縮図②	1	○ 拡大図や縮図の弁別をしたり，対応する辺の長さや角の大きさを求める。	(1)イ
1. 拡大図と縮図③	1	○ 1辺をもとにして，三角形の拡大図と縮図を作図する。	(1)イ
1. 拡大図と縮図④	1	○ 拡大図，縮図のかき方を工夫する。	(1)イ
		・ 1点を中心にして，三角形や四角形の拡大図と縮図を作図する。	
1. 拡大図と縮図⑤	1	○ 二等辺三角形や平行四辺形などの平面図形が拡大図，縮図になっているかを調べることを通して，既習の図形の見方を深める。	(1)イ
		・ 主な基本的な平面図形が拡大図，縮図の関係になっているかを調べる。	
2. 縮図の利用①	1	○ 縮尺の用語とその意味を知り，縮図から実際の長さを求める。	(1)ア
2. 縮図の利用②	1	○ 縮図を利用して，直接測れないものの長さや高さを求める方法を考える。	(1)ア
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で，拡大図と縮図の基本的な学習内容を理解しているかを確認し，それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で，辺の長さや角の大きさに注目し図形どうしの関係を考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	6	東書		104	6	9	9

大単元(題材名)	7. 円の面積		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 計算による求積可能な図形に等積変形することによって、円の面積は計算で求められることがわかる。
	○ 求積公式を用いて、円の面積を求めることができる。
思・判・表	○ 計算による求積可能な図形に等積変形することによって、円の面積の求積公式の導き方を考えることができる。
	○ 円の面積の求積公式を使って、いろいろな図形の面積の求め方を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 円の面積を、既習の図形と関連付けて考えたり、円を組み合わせた図形の面積を、いろいろな考え方で求めようとしてたりする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 円の面積の求積公式を理解している。	B(3)ア(ア)
	○ 求積公式を用いて、円の面積を求めている。	B(3)ア(ア)
思・判・表	○ 求積可能な図形に等積変形して、円の面積の求積公式の導き方を考え、説明している。	B(3)イ(ア)
	○ 円の面積の求積公式を使って、いろいろな図形の面積の求め方を考え、説明している。	B(3)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 円の面積の求積公式を、計算による求積可能な図形に等積変形をして考え、その考えをわかりやすく説明する工夫をしている。	
	○ 円を組み合わせた図形の面積を、いろいろな考え方で求めて、答えが同じになるかを確かめている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4	年 面積のはかり方と表し方
5	年 四角形と三角形の面積
5	年 正多角形と円周の長さ

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1. 円の面積①	1	○ 円に外接する正方形や内接する正方形から、円の面積を見積もる。	(1)イ
1. 円の面積②	1	○ 円の面積を求める方法を考える。 ・ 方眼紙で実測したり、内接する多角形の面積から求めたりして、円の面積は半径を1辺とする正方形の面積の約3.1倍ととらえる。	(1)イ
1. 円の面積③	1	○ 円の面積を求める公式をつくる。 ・ 円を分割し並べかえて、平行四辺形から長方形に等積変形することから、円の求積公式を求める。 ・ 「ますりん通信」で、円を三角形に変形させて、円の求積公式をつくれることを知る。	(1)イ
1. 円の面積④	1	○ 円の求積公式を適用して、いろいろな図形の面積の求め方を説明する。 ・ 3人の図形の面積の求め方を、図や式を使って説明する。	(1)イ, ウ
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で、円の面積を活用して、ピザづくりに必要な小麦粉の量を求める。	(1)ア, ウ
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で、円の面積の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。 ○ 「つないでこう算数の目」で、円の求積公式を適用して、いろいろな図形の面積の求め方を考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	6	東書		120	5	10	10

大単元(題材名)	8. 角柱と円柱の体積		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 底面積の用語とその意味がわかる。
	○ 角柱、円柱の体積は、底面積×高さの公式で求められることがわかる。
	○ 角柱、円柱の体積を求積公式を用いて求めることができる。
思・判・表	○ 角柱、円柱の体積は、底面積×高さの公式で求められることを説明できる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 柱体の体積の求積公式を、既習の直方体の体積の求積公式をもとに考えたことを通して、公式について見直そうとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 底面積の用語とその意味を理解している。	B(4)ア(ア)
	○ 角柱、円柱の体積は、底面積×高さの公式で求められることを理解している。	B(4)ア(ア)
	○ 角柱、円柱の体積を求積公式を用いて求めている。	B(4)ア(ア)
思・判・表	○ 角柱、円柱の体積の求積公式を、直方体の体積の求め方をもとにして考え、説明している。	B(4)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 柱体の体積の求積公式を、既習の直方体の体積の求積公式をもとに考えている。	
	○ L字型の立体等を角柱とみれば、角柱の体積の求積公式が使えることを知り、どの面を底面にすればよいかを考え、進んで説明している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
5 年	直方体や立方体の体積
5 年	角柱と円柱
6 年	円の面積

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
角柱と円柱の体積①	1	○ 底面積の用語とその意味を知り、立方体、直方体を四角柱とみて、体積は底面積×高さで求められることを理解する。	(1)イ
角柱と円柱の体積②	1	○ 三角柱の体積の求め方を考える。 ・ 角柱の体積は、底面積×高さで求められることを理解し、角柱の体積を求める。	(1)イ
角柱と円柱の体積③	1	○ 円柱の体積の求め方を考える。 ・ 角柱、円柱の体積は、底面積×高さで求められることをまとめる。	(1)イ
角柱と円柱の体積④	1	○ L字型の立体に角柱の体積の公式が使えないか考える。 ・ 角柱とみるために、どの面を底面積とみればよいか分かり、求積公式が使えることを知る。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、角柱と円柱の体積の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、求積公式を振り返り、式の意味を見直して体積の求め方を考える。	

2023

年度

教科

算数

学年

6

教科書

東書

上下

教科書ページ

128

～

132

配当時数

5

配当月

10

～

10

大単元(題材名)	9. およその面積と体積		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 身の回りにある形のおよその面積や容積，体積を，概形を捉えて求めることができる。
思・判・表	○ 身の回りにある形のおよその面積や容積，体積の求め方を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ およその面積や容積の求め方を通して，身の回りにある形について，多様な図形の見方を働かせようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 身の回りにある形のおよその面積や容積，体積を，概形を捉えて求めている。	B(2)ア(ア)
思・判・表	○ 身の回りにある形のおよその面積や容積，体積の求め方を概形を捉えて考え，説明している。	B(2)イ(ア)
		B(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 身の回りにある形のおよその面積や容積，体積を，求積可能な図形に置き換えて進んで求めている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4 年	面積のはかり方と表し方
5 年	四角形と三角形の面積
6 年	円の面積 / 角柱と円柱の体積

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
およその面積と体積①	1	○ およその面積は，求積可能な図形とみて求められることを理解する。	(1)ア
およその面積と体積②	1	○ 身の回りにあるいろいろなもののおよその面積を求める。	(1)ア
およその面積と体積③	1	○ およその容積の求め方を考え，求める。	(1)ア
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で，地図を使って，およその面積を求める。	(1)ア
まとめ②	1	○ 「つないでいこう算数の目」で，形の特徴に注目し，どんな形とみればよいかを考え，およその面積を求める。	

2023	年度								
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月			
算数	6	東書		136	15	10	162	11	

大単元(題材名)	10. 比例と反比例		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	C 変化と関係		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 比例する2つの数量の変化の割合がわかる。
	○ 比例する2つの数量の関係を式やグラフに表し、その特徴がわかる。
	○ 反比例について、その定義や性質がわかる。
	○ 反比例する2つの数量の関係を式やグラフに表し、その特徴がわかる。
思・判・表	○ 比例の関係に着目して、問題を解くことができる。
	○ 比例する2つのグラフを読み取ることができる。
	○ 反比例の関係に着目して、問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 比例や反比例について考え、考えたことについて友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ y が x に比例するとき、 x の値が5/3倍、1.5倍などになると、 y の値も5/3倍、1.5倍などになることを理解している。	A(2)ア(ア), C(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ y が x に比例するとき、 x と y の関係は、 $y \div x = \text{決まった数}$ 、 $y = \text{決まった数} \times x$ の式で表せることを理解している。	A(2)ア(ア), C(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 比例する2つの数量の関係をグラフに表している。	A(2)ア(ア), C(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 比例の関係に着目することで、問題が解決できる場合があることを理解している。	A(2)ア(ア), C(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 反比例の用語とその定義、性質を理解している。	A(2)ア(ア), C(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ y が x に反比例するとき、 x と y の関係は、 $x \times y = \text{決まった数}$ 、 $y = \text{決まった数} \div x$ の式で表せることを理解している。	A(2)ア(ア), C(1)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 反比例する2つの数量の関係をグラフに表している。	A(2)ア(ア), C(1)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 比例の関係に着目して、問題を解いている。	A(2)イ(ア), C(1)イ(ア)
	○ 比例する2つのグラフを読み取っている。	A(2)イ(ア), C(1)イ(ア)
	○ 反比例の関係に着目して、問題を解いている。	A(2)イ(ア), C(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 身の回りの伴って変わる2つの量の中から、比例の関係にあるものをみつけている。	
	○ 身の回りの伴って変わる2つの量の中から、反比例の関係にあるものをみつけている。	
	○ 比例や反比例のグラフから、気づいたことを友だちと話し合っている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
5	年 比例
5	年 変わり方調べ

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.比例の性質①	1	○ 比例する2つの量の関係には、どのような性質があるかを調べ、まとめる。	(1)ア, ウ
1.比例の性質②	1	○ y が x に比例するとき、 x の値が□倍になると y の値も□倍になることを理解する。	(1)ア
2.比例の式①	1	○ 比例する2つの量の関係を式に表す。	(1)ア, ウ
		・ y が x に比例するとき、 x と y の関係は、 y を x でわった商は一定で、 $y =$ 決まった数 $\times x$ の式で表せることを理解する。	
2.比例の式②	1	○ 水槽に水を入れる時間を5分間と決めた場面で、比例の関係になっている2つの量をみつけ、関係を調べる。	(1)ア
3.比例のグラフ①	1	○ 比例の関係をグラフに表したり、特徴を調べたりする。	(1)ア
		・ 比例する2つの量の関係を表すグラフは、原点を通る直線になることを理解し、比例のグラフをかく。	
3.比例のグラフ②	1	○ 道のりは時間に比例する問題をグラフに表して、グラフから道のりや時間を読み取る。	(1)ア
3.比例のグラフ③	1	○ 2本の比例のグラフから、いろいろなことを読み取る問題の解決を通して比例のグラフへの理解を深める。	(1)ア
4.比例の利用①	1	○ 画用紙300枚を数えないで用意する方法を、比例の関係を利用して問題解決をする。	(1)ア, ウ
		・ 3人の考え方を、式や表を使って説明する。	
4.比例の利用②	1	○ 比例の関係を利用して、問題解決をする。	(1)ア, ウ
5.練習	1	○ 練習に取り組み、学習内容を理解しているかを確認する。	
6.反比例①	1	○ 「反比例」の用語とその定義を理解する。	(1)ア
6.反比例②	1	○ y が x に反比例するとき、 x の値が $1/2$ 倍、 $1/3$ 倍、…になると、 y の値は2倍、3倍、…になることを理解する。	(1)ア
6.反比例③	1	○ y が x に反比例するとき、 x と y の関係は、 $y =$ 決まった数 $\div x$ の式で表せることを理解する。	(1)ア
6.反比例④	1	○ 反比例の関係をグラフに表し、そのグラフの特徴を調べる。	(1)ア
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、比例と反比例の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、数量の関係に注目し、平行四辺形で、比例と反比例について考える。	

2023年度

教科
算数

学年
6

教科書
東書

上下
(年)

教科書ページ
164

配当時数
6

配当月
11

～173

～12

大単元(題材名)	11. 並べ方と組み合わせ方		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	D データの活用		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 起こり得る場合を落ちや重なりがないように調べるには、図や表などにかいて調べるとよいことがわかる。
	○ 並べ方を図や表を用いて落ちや重なりがないように調べ、全部で何通りあるかを求めることができる。
	○ 組み合わせ方を図や表を用いて落ちや重なりがないように調べ、全部で何通りあるかを求めることができる。
思・判・表	○ 起こり得る場合の数を落ちや重なりがないように、図や表を適切に用いて、順序良く筋道立てて考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 起こり得る場合の数を落ちや重なりがないように調べる方法を考え、考えたことについて友だちと話し合い、自分の考えを見直してまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ いくつかのものを順番に並べるとき、並べ方は全部で何通りあるかを求めている。	D(2)ア(ア)
	○ いくつかのものから2つ選んで並べるとき、並べ方は全部で何通りあるかを求めている。	D(2)ア(ア)
	○ メダルを何回か投げたときの、表と裏の出方が全部で何通りあるかを考え、求めている。	D(2)ア(ア)
	○ いくつかのものの中から順番に関係なく、2つを選んだときの組み合わせ方の総数を求めている。	D(2)ア(ア)
	○ いくつかのものの中から、その数より1つ少ない数を選んだときの組み合わせ方の総数を求めている。	D(2)ア(ア)
思・判・表	○ 起こり得る場合の数を落ちや重なりがないように、図や表を適切に用いて考え、説明している。	D(2)イ(ア)
	○ 起こり得る場合の数を落ちや重なりがないように、順序よく筋道立てて考え、説明している。	D(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 起こり得る場合の数を、1つのものを固定して、落ちや重なりなく調べる方法を友だちと話し合っている。	
	○ 起こり得る場合の数を、進んで図や表などに整理して表すことによって、落ちや重なりなく調べている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
年	
年	

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.並べ方①	1	○ 並べ方が全部で何通りあるかを、落ちや重なりがないように調べる方法を考える。 ・ いくつかのものを順番に並べるとき、並べ方は全部で何通りあるかの求め方を理解する。	(1)ア, ウ
1.並べ方②	1	○ 並べ方が全部で何通りあるかの求め方を、落ちや重なりがないように調べる方法の理解を深める。 ・ 4枚の数字カードから、2けたの整数が全部で何通りできるかを調べる。 ・ メダルを3回投げた時の表と裏の出方が全部で何通りあるかを調べる。 ・ 「ますりん通信」で、いくつかの数字を使ってつくる、4けたのパスワードが何通りできるかなどを考える。	(1)イ, ウ
2.組み合わせ方①	1	○ 組み合わせ方の総数を、落ちや重なりがないように調べる方法を考える。	(1)ア, ウ
2.組み合わせ方②	1	○ いくつかのものの中から順番に関係なく、2つを選んだときの組み合わせ方の総数の求め方を理解する。	(1)ア
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で、レストランでどんなセットができるかを、場合の数の学習を活用して問題解決する。	(1)ア
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で、場合の数の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	6	東書		176	13	12	12

大単元(題材名)	12. データの調べ方		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	D データの活用		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 代表値としての、平均値、中央値、最頻値の用語とその意味がわかる。 ○ ドットプロットの用語とその意味を知り、データをドットプロットに表したり、ドットプロットから中央値、最頻値を求めたりできる。 ○ データを度数分布表に表したり、読んだりできる。 ○ 度数分布表を柱状グラフに表し、データ全体の特徴を読み取ることができる。 ○ あるテーマのいろいろなグラフ等から、その特徴を読み取ることができる。
思・判・表	○ 度数分布表や柱状グラフを見て、データの傾向や特徴を捉え、説明することができる。 ○ 複数のデータの特徴を、統計的な考察をして比べ、説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 統計的な処理について考え、考えたことについて友だちと話し合い、結論が妥当かどうか見直そうとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 代表値としての、平均値、中央値、最頻値の用語とその意味を理解している。 ○ ドットプロットの用語とその意味を知り、データをドットプロットに表している。 ○ ドットプロットから中央値、最頻値を求めている。 ○ データを度数分布表や柱状グラフに表し、データ全体の特徴を読み取っている。 ○ 男女別年齢別の人口のグラフ等から、特徴を読み取っている。	D(1)ア(ア)(イ)(ウ) D(1)ア(ア)(イ)(ウ) D(1)ア(ア)(イ)(ウ) D(1)ア(ア)(イ)(ウ) D(1)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 度数分布表や柱状グラフを見て、データの傾向や特徴を捉え、説明している。 ○ 複数のデータの特徴を、統計的な考察をして比べ、説明している。	D(1)イ(ア) D(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 度数分布表や柱状グラフから、データ全体の特徴を分析し、結論をわかりやすく説明する工夫をしている。 ○ 身の回りの事象の問題解決を、統計的な問題解決方法を進んで取り入れて取り組んでいる。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4 年	折れ線グラフと表
5 年	平均
5 年	帯グラフと円グラフ

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.問題の解決の進め方①	2	○ 1組が8の字跳び大会で優勝できるかを、データから予想することを通してデータの比較のしかたを考える。	(1)ア, ウ
		○ データを比較するときには、平均を使うことがあることを知る。	(1)ア
		・ 平均値の用語とその意味を知る。	
1.問題の解決の進め方②	1	○ ドットプロットの用語とその意味を知り、ドットプロットに表したり、読んだりする。	(1)ア
		・ 最頻値(モード)の用語とその意味を知る。	
1.問題の解決の進め方③	1	○ データを度数分布表に整理する方法を理解し、読み取る。	(1)ア
		・ 階級, 階級の幅, 度数, 度数分布表の用語とその意味を知る。	
1.問題の解決の進め方④	1	○ 柱状グラフ(ヒストグラム)の用語とその意味を知り、データを柱状グラフに表したり、読んだりする。	(1)ア
1.問題の解決の進め方⑤	1	○ 代表値として使われる中央値について考える。	(1)ア
		・ 代表値, 中央値の用語とその意味を知る。	
1.問題の解決の進め方⑥	1	○ データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え、判断する。	(1)ア, ウ
1.問題の解決の進め方⑦	1	○ 新たな課題を設定し、データをもとに問題解決する。また、統計的な問題解決方法を理解する。	(1)ア, ウ
		・ 新たな課題に対してデータを根拠にして、その理由を明確にする。	
2.いろいろなグラフ	1	○ 男女別年齢別の日本の人口のグラフや、既習のグラフを組み合わせたグラフの読み方を理解する。	(1)ア, ウ
まとめ①	3	○ 「いかしてみよう」で、身の回りの事象について、学習した内容を活用して問題解決する。	(1)ア
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で、データの活用の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、問題に注目し、データを用いた解決方法を考える。	